ハ ラ ス メ ン ト の な い

みんなの快適な

学習

教 育

研究

環境のために

 V_{O}]。1 シリーズ 1. まず相談 シリーズ 2. 相談を受けた時



はじめに

皆さんにとって"学校"とは、どのような場所でしたか? 思い出してみると、家庭での出来事と同じくらい印象に残っていませんか? 学生にとって学校は考え方や生き方に大きな影響を与える場所です。

"昭和"は、体罰を含め��咤激励が教育の一貫だと思われていた時代でした。それが、 "平成"になり、「いくら学生を伸ばそうと思っていたとしても、体罰や��責はよくない のではないか」「指導により辛くなり、学校に行けなくなってしまったら、本末転倒では ないか」と、厳しい指導が結果として学生の未来を潰しかねないと問題視されはじめた時 代でした。

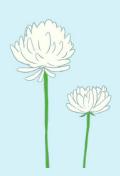
いじめもそうですが、体罰や人格を否定する発言は「人を傷つける行為」です。「自分がされて嫌なことは人にはしない」「相手が嫌だと感じることは人にはしない」ということは、大人になってからも、また、お年寄りに対しても、同級生に対しても、子供に対しても同様に守るべきことです。

"令和"はそんな一見当たり前に思えることかもしれませんが、 教育指導においても「相手を傷つける行為はしない、改めていく時代」になります。

教員同士、教員-学生、学生同士でも、「相手を傷つける行為」-ハラスメントをなくすためにはどうしたらいいか、この冊子を通して一緒に考えていきましょう!



本冊子は"令和時代の教員育成プロジェクト"から生まれました。 教職に就きたいと思っている学生は、特に読んで頂けたらと思います。



アカデミック・ハラスメントとは?

教育や研究の場で、指導している先生などが 叱責したり、能力を否定したりする行為です

厳しい指導のつもりでも受け手はとても辛い

- ・学生の場合には講義やゼミのときに、 院生の場合には研究室で 主に指導教員から被害を受けることが起こっています。
- クラブ活動でも指導中に起こっています
- 教員間でもあります

こんなことを教室や指導の時に 先生から言われたことはありませんか?

「今の学生は出来が悪い」

「そんなことでは社会人になれない」 「親の育て方が悪い」

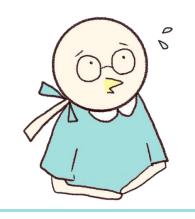
「(頭の悪い者には)教える気になれない」

「楽をしようとしてはだめ」「死ぬつもりで頑張れ!」

「物の言い方がなっていない」

「服装の趣味が悪い」

こんなことで悩んでいる人もいます



少し考える時間を下さい

例えば、

「すぐに答えられなければゼロ点とする」 「簡潔に答えられないのは考えていないからだ」 といったスピードのある答えを求める先生がいます。 じっくり考えてから答えるタイプの学生さんにとっては、 すごいストレスで、「どうか自分を当てないでほしい」と 念じて過ごす時間となってしまいます。

他にも、

「そういう質問をするのは君だけだ」

「他の皆は知っている」

「自分勝手すぎる」

「人に好かれるように努力するべきだ」

と、あたかも本人だけがわかっていない・できていないと 思わせるようなことを言う先生もいます。



自分だけ嫌われている気がする

オンライン授業でも・・・

あるオンライン授業のことです。背景を確認し忘れたある学生が、背景の洗濯物に気づき、急いで片付けようとしました。すると、先生はその様子を見て、学生の"やる気がない"と判断し、「少し動いただけの人、ちょっと画面を消した人を欠席扱いにする」と言い出したのです。このようなことを言わると、学生は「単位がもらえないのではないか」と悩んでしまいます。他にも、オンラインでは、対面と比べてコミュニケーションが取りにくいため、先生から嫌われていると感じることもあるようです。



どうして、 そんなことをするのか?

そういう教員は、

- 有効な指導法である
- 教員の決めたルールに従うことは当たり前
- ・ �����励は教育上必要である
- 出来ないところを自覚させて矯正させなければ 社会人として通用しない
- 出来ているところを褒めるのは自信過剰な自惚れを助長するだけ
 - ・・という教育観を持っていることが多いのです



しかし、<u>こういう思い込みは</u> <u>ハラスメントのない教育環境をつくる上で</u> <u>容認されるものではありません</u>

教員は厳しい指導をしているつもりでも、学生・生徒の学習意欲を削ぎ、将来を潰してしまうことになってしまいます。こういった間違った教育は、ハラスメントのない教育環境をつくる上で、改めなければなりません。

<u>これからの先生は、ハラスメントについて知り、防止し、</u> <u>誰もが快適に学び、教え、働ける教育環境を</u> つくっていって下さい!

シリーズ1. まずは、相談

それでは、イヤな思いやハラスメントを受けている学生や生徒から相談を受ける立場になった時、または、あなた自身が学校や大学で、先生や先輩、友達に嫌なことを言われたりされたりした時に、どうしたらいいか考えていきましょう。

嫌な気持ちを我慢している人がいます

嫌だと声には出せないけど・・・

「今の学生は出来が悪い」

「服装の趣味が悪い」

「教える気になれない」

「やる気がなさそう」

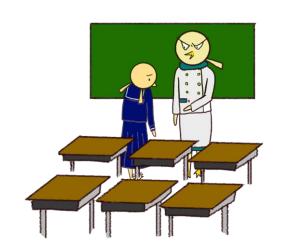
どうしてそんなことを言うの・・

「そんなことでは社会人になれない」

「頭が悪い」

「親の育て方が悪い」

「楽をしようとしてはだめ」



聞いているだけ、 イヤな気持ちになります



少し考える時間を下さい

「直ぐに答えられなければゼロ点とする」 「答えられないのは

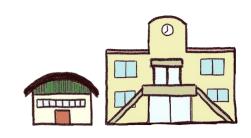
真面目に聞いてないからだし

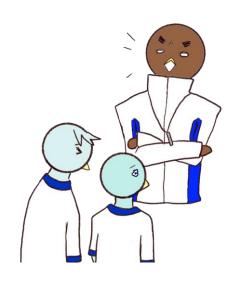
自分だけ嫌われている気がする

「そういう質問をするのは君だけだ」 「他の皆は知っている」 「人に好かれないだろう」

セクハラ発言

「もっと可愛らしくしろよ!」 「付き合っている人、いるの?」 「女を売っている」 「お前、ほんとに男?」





しつこい、イヤな、断りにくい誘い

「夜遅いから送っていく」

「奢るよ!」

「今週末暇?」

「二人きりもいいかな」

「皆で一緒に飲もうぜ!」

「相談事があるんだ」

「是非、君に頼みたいことがある」

暴言

「こんなこともできないのか」 「もういい、君には頼まない」 「何べん言ったらわかるんだ」 「辞めた方がいい」

人格否定発言

「君には能力がない」

「バカ、アホ」

「親の顔が見たい」

「最低な人間だ」

「いくら努力しても無駄だ」

「君の性格は悪い」

「友達はいないだろう」



なぜ我慢してしまうのか?

我慢をしても嫌なことはなくなりませんが、たいていの場合、我慢をしてしまいます。では、何故我慢してしまうのか見ていきましょう。

はじめは、とりたてて問題にするほどで はないと思えるような出来事です。

そして、自分にも悪いところがあったと思うので、問題に出来ないと思ってしまいます。

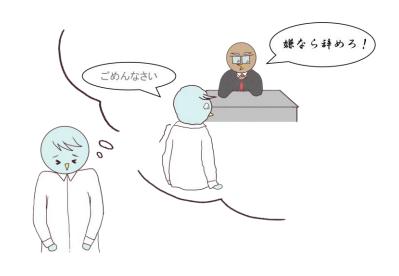
それに、嫌といえない・断れないということを他の人にわかってもらえない、あるいは波風を立てたくないとあきらめてしまいます。

また、問題を公にしたら報復されるのではないかと不安な気持ちにもなります。 あぁ、だったらどうしたらいいのだろう、 と悩んで我慢してしまいます。

これらのことから、誰にも相談することができず、我慢してしまうのです。



① こんなことくらいで・・・



④ 報復が怖い



② 自分にも非があると思うから



③ イヤと言えない、断れない

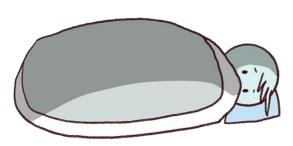


⑤ どうしていいかわからない



このまま我慢していたら





悩んで我慢しているうちに、気持ちは沈み、心身 に不調があらわれます。

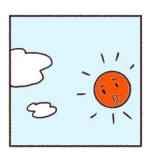
いざ、学校や大学に行こう、あるいはオンライン 授業を受けようとすると、吐き気がしたり、頭や お腹が痛くなってしまいます。

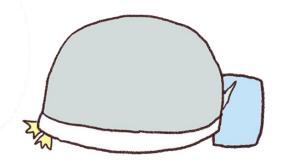
そして、授業を受けても、もっとひどいことを言 われたり、されたりするのではないかと不安にな り、学校や大学に行けなくなってしまいます。



そうなると、将来が変わってしまいます。 ハラスメントが人生を左右する出来事になってし まうのです。

そのため、体調が悪くなったり、学校に行けなく なる前に、助けを求めましょう。





相談しましょう = 助けを求める第1歩

相談しましょう 一助けを求める第1歩

①「相談する」というのは、助けを求めること

相談することは、自分一人ではどうしたらいいのかわからないときに、

話を聴いてもらい、自分の状況を理解してもらい、問題点を一緒に整理してもらう ことなのです。

自分の今の状態、苦しい状態を理解してもらえれば、まずは自分はひとりではない、 我慢できない自分が悪いのではないと思えるようになります。

「相談する」うちに、話を聴いてもらっているうちに、気持ちが落ち着き、問題点が整理されてきます。**問題点が整理されれば、解決策を考えられるようになります。**

②誰に相談したらいいのか

- ・身近で信頼できる人
- ・学校・大学の相談窓口
- 外部の相談専門機関

まずは、身近で信頼できる人に話してみましょう。学校や大学の相談窓口に行くと きに一緒に付き添ってくれるだけでも心強い味方です。

③学校や大学に相談する時には

相談窓口に行ったら、まずは困っていることを話せばいいのです。

もし、あなたの<u>相談内容がすぐに相手の教員に漏れたりしないかなど、心配なこと</u>があれば、まずその点について確認をとってから話をはじめてください。

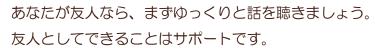
相談しても、<u>自分の気持ちをわかってもらえなければ、他をあたりましょう。</u>誰か 分かってくれる人はいます。その人に、<u>自分の思っていることをすべて話してくだ</u> さい。相談は解決のための助けを求める第1歩です。

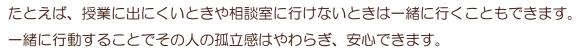
シリーズ2. 相談を受けた時

それでは、あなたが相談を受けた時、 どうすればいいのか考えてみましょう

あなたが友人なら

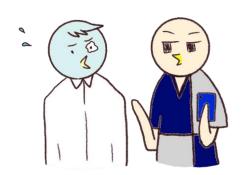
- ① 話を聞いて、寄り添うこと
 - ○ゆっくり話を聴いてあげる
 - ○体調を気遣ってあげる
 - ○授業等に一緒に出る
 - ○相談室に一緒に行く





そして、相談された内容を他の人に話さないことを約束しておきましょう。





- ×一緒になって相手を攻撃する
- ×相手の味方になるようなことを言う
- ×本人にも非があると指摘する
- ×「気にするな」、「考えすぎ」と諭す
- ×SNS等で拡散しようと煽る
- ×他の友人にもしゃべる

友人として気を付けなければならないこともあります。

一緒になって相手を攻撃したり、逆に相手の味方になるようなことを言う。また、友人に 非があるような指摘をしてはいけません。また、友人はやっとの思いで相談しているので すから、「気にするな」とか「考えすぎ」という気休めをいうのはやめましょう。SNSな どで拡散することは、かえって危険なことにつながるので、控えましょう。



あなたが家族なら

- 冷静に話を聴く
- せめる言葉を口にしない「おまえにも悪いところがある」「おまえにもスキがある」など
- 先走って動かない
- ・家族の中でも秘密は守る
- ・相談室に行く

あなたが家族なら、まず、冷静に話を聴きましょう。 本人に対してはせめる言葉を口にしてはいけません。

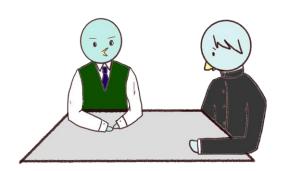


本人の体調が悪い時には家族として相談室に相談に行くこともできます。





あなたが先生なら



- 本人の話をしっかり聞く、逃げない
- ・問題解決に向けて動くこと
- ・一人で抱え込まない
- 「誰に何を伝えるか」を本人の了解を得て、 納得してもらってから動く

あなたが先生なら、本人の話をしっかり聞きましょう。

あなたは、相談から逃げてはいけないし、問題解決に向けて動くことが求められています。

しかし、個人的な考えで動くことは止めましょう。学校の中で一人で解決しようとせずに、本人の了解を得て他の教員に相談したり相談窓口と連携しましょう。

そのためには、相談者の気持ちをしっかりと理解することが大切です。

相談者の気持ちを理解することが解決への第一歩

Let's challenge!

さて、ここでいくつかの事例をみてみましょう!皆さんも事例を読みながら、どういうことが考えられるか、また自分だったら何と声をかけるか考えてみましょう!

事例1

ある授業で行う地域活動のグループ内のことです。 女子学生4人の中で1人だけが仲間外れにされているようです。 グループリーダーとして、どうすればいいでしょうか? 当事者はどのような 気持ちになるでしょうか? 何と声をかけますか?

事例2

コロナ禍で対面授業がなくて、学生同士も会わないので、学生間でLINEをつくったところ、ちょっとした意見の違いからいざこざが起こりました。

不愉快なのでLINEを無視していると、さらに攻撃されてしまいました。ZOOMでの授業では、彼らの顔が見えて、先生に気に入られるような受け答えをしているので、授業に参加するのが苦痛です。彼らに会うのが嫌なので、授業に参加したくありませんでした。

どういうことが考えらえるかな? どうしたらいいでしょうか。 何と声をかけますか?

事例3

A先生の科目のことです。与えられた課題についてレポートを書いて持っていっても、A先生は「ここはダメ。書き直して来週持って来なさい」と具体的な指摘はありませんでした。

仕方なく、自分で考えて直して持っていくと、「あ〜あ、ダメだなぁ、情けない。理解していない。」と言って、「また、書き直し! 内容のあるものを書いて持って来なさい!」と返されました。 レポートは毎回、何回も書き直しをさせられて、疲れ果てました。 こんな時あなたはどうしますか? 友達から相談されたら、 何と声をかけますか?

話の聞き方は相手を責めていないかな?相談は正解があるものではありません。 友達や周りの方と共有して、皆はどう感じたか、自分はどう思ったか話してみましょう!

私にできることを書いてみよう!

MAAKOMFPD影ル



NAAHでは、YouTubeにて無料教材を配信中です!

- ▶大学・院向け動画 『ぺんぎん先生とヤギくん』
- ▶教職向け動画 『令和時代の教員育成』

詳しくは、QRコードもしくは

YouTubeにて「NAAH教材チャンネル」を検索!

https://www.youtube.com/channel/UC2IHTm68lj4Yq8sWfDpSjkw



おれ

9

1

今回は「相談すること」について学びました。人は誰しも1人で生きていけません。 もし、悩んでいる時に「友達に相談するのは悪いな・・・」「迷惑だよなぁ」と思った時は、こ の冊子のことを思い出し、一番相談しやすい場所に相談しましょう。

また、悩んでいる時はなかなか自分から言い出せないものです。もし、悩んでいる方がいたら、 声をかけてみましょう。たとえ1回話を聴いただけでは解決できなくても、心は軽くなります。悩んでいる時に親身になって話を聴いてくれたことは一生忘れないものです。その経験がお互いの心を温かくし、今度は自分が人の話を聴ける人になろうと思えるようになります。

一人ひとりが笑顔の花を咲かせていける教育環境を皆さんも一緒に作っていきましょう!

パロ NAAHでは、アカハラの相談をお受けしております。

「これってハラスメントかな・・・」「わからないけど、なんだか辛い」「どうしよう」

そんな時は、まずご連絡下さい。

また、大学で対応にお困りの方もご相談頂けます。

お申込みは電話、Email、手紙または公式HPの"相談受付フォーム"よりお願い致します。

TEL: 06-6353-3364

Mail: soudan@naah.jp

公式HP: http://www.naah.jp/ 回



手紙郵送先:

〒530-0044

大阪市北区東天満2丁目9-4 千代田ビル東館507号室 アカデミックNPO事務局

この冊子は公益財団法人 大阪コミュニティ財団の助成により作成しました



転載または複製することは、 固く禁じております。 制作日:2021年7月